

## SS 研教育環境フォーラム 2020

# 「オンライン活用で教育の未来を切り拓く -コロナ禍で変わった、学び・働く環境-」

～ SS 研会員に限らず、どなたでもご参加いただけます ～

■ 日時 : 2020 年 9 月 14 日(月) フォーラム 14:00～17:00

■ 場所 : オンライン開催 (ZOOM ウェビナー)

## ■ 開催趣旨

従前より、この研究会では高等教育の情報化に関連し教育現場のハードとソフトを議論するという活動を行ってきたところです。ところが、2020 年度の「コロナ禍」は、それらの議論を全て吹き飛ばすかのような勢いで襲来し、情報ネットワークを使った「オンライン活動」で高等教育の現場を塗りつぶしてしまいました。もちろんその影響は高等教育だけではなく、初等中等教育や、一般のオフィスにも及んでいることは言うまでもありません。

この事態は、教育情報化が加速されていると見ることもできますが、拙速に導入せざるを得なかったことによる悪影響も予想されます。いずれにせよ、今何が起きているかを整理し、今後の教育の向上にどのように接続していけば良いのかを考えていかなければいけないでしょう。

本フォーラムでは、高等教育現場でオンライン授業を実施した立場からと、企業でリモートワークを導入した立場から講演をいただき、まずは現状確認から今後に向けて発展的な議論が行えればと考えています。

■ プログラム (予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。)

—敬称略—

13:50～	ウェビナー接続開始
	[司会] 村上 正行 (大阪大学)
14:00～14:05	開催趣旨説明 隅谷 孝洋 (広島大学)
14:05～15:05 講演 50 分 Q&A 10 分	<b>基調講演</b> <b>「未来の教育へ向けて -コロナでただでコロべるか!-」</b> <b>喜多 一 (京都大学)</b> 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的なパンデミックの中で我が国の大学教育も大規模なオンライン授業での教育の維持を余儀なくされている。しかしながら、そこでは、これまでの情報通信技術の進歩と普及を支えに、単に対面授業の代替として避難的にオンライン授業が実施されているだけでなく、これまでに成しえなかった授業の改善なども生じている。本講演では京都大学でのオンライン授業の実施経験を踏まえ、そこで得られたもの、欠けていたものを考えるとともに、未来の教育として、キャンパスに縛られない大学教育の価値を考えたい。
15:05～15:20	休憩 (15 分)
15:20～16:55 プレゼンテーション 10 分/名	<b>ライトニングトーク</b> <b>「学び・働く環境で何が起った? 何が起くる? -コロナで拾った次の一手-」</b> [発表者] 丸山 恭司 (広島大学) 甲斐 晶子 (熊本大学) 立岩 礼子 (京都外国語大学) 井垣 宏 (大阪工業大学) 杉浦 真由美 (北海道大学) 田村 恭久 (上智大学) 貝塚 真樹 (株式会社インフォテックノ朝日) 三原 乙恵 (株式会社富士通ラーニングメディア) ※途中休憩 (10 分予定) あり。
16:55～17:00	閉会挨拶 小林 真也 (愛媛大学)

(裏面に続く)

## ■ 参加方法

開催日前にお申込みいただいた方へ、事務局から参加者用 URL/ID 等をお知らせいたします。

## ■ ご参加について

- 参加対象 : オープン開催(SS 研会員機関以外の方でも、ご参加いただけます)
- 参加費 : 無料

## ■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込み下さい。(9 月 9 日申込受付終了)

**<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>**



【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会(SS 研) 事務局  
〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター  
富士通(株) カスタマーリレーション部内  
Email: [ssken-office@ml.css.fujitsu.com](mailto:ssken-office@ml.css.fujitsu.com)  
URL <http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>